

● 最先端スポーツ医学を学ぶ—柔整アドバンスコース アメリカ研修

6月19日～7月1日の13日間、スポーツ医学の先進国・アメリカでスポーツ外傷や障害について学ぶことを目的に、オレゴン州アシュランドの南オレゴン大学で研修を行いました。

研修の内容は「スポーツ外傷や障害についての講義」「テーピング実習」「評価法実習」「心肺蘇生法」「スポーツ見学」「トレーナー活動見学」など。すべて現地の医師やアスレティックトレーナーから直接指導を受けます。中でも最も印象深いのは「トレーナー活動見学」で、アメリカンフットボールなどの試合や練習に帯同しているアスレティックトレーナーの活動を間近で見学します。実際に選手がケガをし、トレーナーが評価や応急処置を行う場面では、その緊張感が学生たちにも伝わりその表情も引締まっていた。

例年、学生たちはこの研修を終えてひと回りもふた回りも成長しているように感じます。スポーツ現場での医療活動を目の当たりにして自らが医療人となることを自覚していくのではないかと考えています。この経験を活かして成長してくれることを願っています。
(柔道整復学科教員 伊黒 浩二)



● 日本柔道整復師会 第5回大阪学会で昼間部学生3名発表

8月21日、大阪国際会議場にて第5回大阪学会が開催され、3年生昼間部の芳村朋秋さん、渡辺秀和さん、西川悦史さんが「電気刺激を用いたストレッチングの効果」をテーマに、臨床現場でも使用頻度の高い電気療法とストレッチングを組み合わせた筋柔軟性に対するアプローチについて、相反神経抑制効果を狙った電気刺激を併用したストレッチングが効果的であることを報告しました。

今回の演題は、従来から実施されている治療法の良さを再確認するものと、新しい治療法の可能性を示すものでした。どちらも

臨床に直結する大変有意義な発表であり、「臨床の森ノ宮」を広く印象づけたのではないのでしょうか。

学生は今回の経験から、発表するための方法論と共に学会発表の楽しさを学んだことでしょう。この経験を活かして、また近い将来に学会の舞台に立つことを願っています。
(柔道整復学科教員 伊黒 浩二)



● 中国・江陰市中医病院で中医臨床研修

8月18日～25日、上海市の北西、江蘇省江陰市中医病院で研修を行いました。この病院は江陰市唯一の市立総合病院で、南京中医薬大学付属病院です。参加メンバーは尾崎朋文・于思先生の随行で、在校生と卒業生の計5名。

研修は主に鍼灸外来・中医美容・推拿外来および老中医による弁証の実体験で、鍼灸外来では中医の先生の間診後、MRI画像で疾患の説明を受け、刺鍼時には解剖学的解説や鑑別方法などを丁寧に説明してもらい、実際に上肢や下肢への刺鍼を体験しました。患者さんに顔面麻痺が多いのに驚きました。また多くの治療実績がある「小針刀(手術)」や火針にも立ち会い、さらに推拿外来では平・斜・直の三法の説明後、実際に指導を受けつつ

鍼灸学科 第36期昼間部卒 桑原 章

メンバー同士で行いました。ポイントは転がすように柔らかく力強く、深部へ浸透するということでした。中医美容外来では全員が顔のマッサージとバックを受け、少々美顔に?!

研修終了後には蘇州・寒山寺や、地上792mの上海ワールドフィナンシャルセンターの100階展望台では大いに興奮!など、上海の観光スポットを楽しみ、また本場中国料理を堪能しました。

今回の研修はご指導くださった諸先生方のお蔭で実り多いものとなりました。ありがとうございました。

